

あがまち

議会だより
議会傍聴(三郷小)



No.48
2017.5

発行：阿賀町議会 ☎0254-92-3112
新潟県東蒲原郡阿賀町津川1580番地
発行責任者：議長 猪俣 誠一
メールアドレス：gikai@town.aga.lg.jp

- ・新議員写真紹介 2P
- ・新年度予算 4P
- ・町民広場 17P

「地域と語る会」の予定

議会も新体制となるため、新委員会にて開催予定を後ほどお知らせいたします。
この度は、町の商工業者との意見交換を予定しております。

自治功労賞を授与

この度、地方自治の振興発展に貢献された功績に対し、全国町村議会議長より表彰状が授与されました。
2名は議員を退職されますが、今後も町の発展に寄与されますよう、お願い申し上げます。

宮澤勝見 議員



清田輝子 議員



農業委員任命に同意

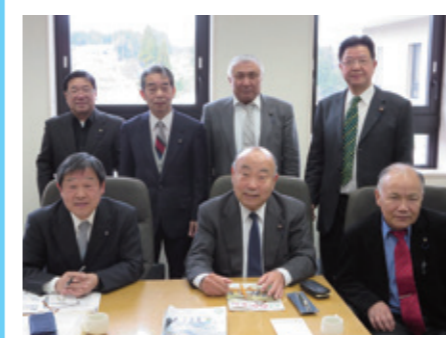
- 伊藤 傳次 (69才) (鹿瀬区)
- 伊藤 光國 (70才) (豊実区)
- 江川 一男 (69才) (広沢区)
- 江川 喜一 (73才) (九島区)
- 遠藤 佐和子 (53才) (粟瀬区)
- 加藤 雄太 (67才) (太田区)
- 神田 昭平 (73才) (岡沢区)
- 小池 正則 (73才) (谷沢区)
- 小日山 助仁 (69才) (五十島区)
- 清田 功 (69才) (水沢区)
- 清野 正勝 (75才) (三階原区)
- 長谷川 利雄 (75才) (津川区)
- 渡部 和敏 (54才) (平堀区)
- 渡辺 昇平 (68才) (八木山区)

固定資産評価審査委員会委員の選任に同意

- 江川 光雄 (66才) (上ノ山区)
- 小庄司 忠悦 (69才) (当麻区)
- 伊藤 久栄 (64才) (東岐区)
- 長谷川 仙一 (60才) (細越区)

大変お世話になりました

2年間広報編集に携ってききました。これからも町民目線の広報となるよう、次の委員にバトンタッチいたします。



編集後記

議会だよりが届く時は、新たな12名の議員が選出されます。

旧広報広聴常任委員会、最期の議会だよりとなりました。国、県の広報研修を重ね、町民が見やすく、読みやすい広報誌を目指してきましたが、行政と議会のやり取りが主な内容なので堅苦しいのと、慣れない執筆で読みにくかった面が多々あったかと思われま

す。
5月から新たな広報広聴委員で、町民が待ちどろしくなる議会だよりとなるよう望みます。

(山口周二)

広報広聴常任委員会

- 委員長 小池 隆晴
- 副委員長 石川 太一
- 委員 神田 八郎
- 委員 山口 周一
- 委員 宮川 弘懿
- 委員 入倉 政盛
- 委員 齋藤 栄

ホームページ
<http://www.town.aga.niigata.jp>

平成28年度一般会計補正予算

1億3,532万円を減額し 総額を126億7,273万円とした

歳入歳出の減額要因としては、民生費は国民健康保険特別会計操出金等が給付実績が予定より少なかったため、林道開設事業費は事業費確定のためである。

また、商工費は「ホテルみかわ」の株式売却によって、改修を予定していた工事費が不要となったことによるものです。

予定した事業で未了で次年度に繰り越す事業は下記のとおりです。



売却したホテルみかわ

- 総務費 戸籍住民台帳費 97万4千円
- 民生費 臨時福祉給付金等 3,742万5千円
- 衛生費 清掃費 処理水放流管敷設 2,000万円
- 農林水産業費 林道開設事業等 1億1,517万7千円
- 商工費 麒麟山公園改修工事 6,000万円
- 土木費 大坂下線改良工事等 5,858万8千円
- 消防費 災害対策事業 78万7千円

繰越明許費総額
2億9千689万1千円

歳入

(単位：千円)

款	補正前の額	補正額	計
地方消費税交付金	210,000	△11,184	198,816
地方特例交付金	2,000	522	2,522
地方交付税	7,100,000	12,879	7,112,879
分担金及び負担金	77,601	2,194	79,795
国庫支出金	730,146	△48,772	681,374
県支出金	682,209	△29,180	653,029
財産収入	15,770	387	16,157
繰入金	167,760	△157,569	10,191
繰越金	291,556	150,326	441,882
諸収入	261,697	14,077	275,774
町債	1,667,600	△69,000	1,598,600
歳入合計	12,808,050	△135,320	12,672,730

歳出

(単位：千円)

款	補正前の額	補正額	計
総務費	1,767,529	△7,180	1,760,349
民生費	2,409,022	△231,272	2,177,750
衛生費	1,271,902	△18,672	1,253,230
農林水産業費	761,612	△12,957	748,655
商工費	367,824	△2,359	365,465
土木費	1,632,514	136,148	1,768,662
消防費	535,341	972	536,313
教育費	791,789	0	791,789
歳入合計	12,808,050	△135,320	12,672,730

新議員の紹介



猪俣 誠一
(4期)



石田 守家
(4期)



清野 眞也
(1期)



斎藤 秀雄
(4期)



五十嵐 隆朗
(4期)



宮川 弘懿
(4期)



小池 隆晴
(3期)



神田 八郎
(4期)



石川 太一
(4期)



斎藤 栄
(2期)



山口 周一
(4期)



入倉 政盛
(3期)

よろしくおねがいます

普通会計性質内訳

(一般会計・診療所特別会計の一部・町営スキー場事業会計の合計)

(単位:千円、%)

歳入	項目	29年度	28年度	増減率
	町税	1,358,153	1,365,253	△ 0.5
譲与税・交付金	292,300	334,000	△ 12.5	
地方交付税	6,800,000	7,100,000	△ 4.2	
国・県支出金	1,100,861	1,277,576	△ 13.8	
繰入金	32,660	167,760	△ 80.5	
繰越金	200,002	200,002	0.0	
地方債	1,537,700	982,900	56.4	
その他	563,384	579,595	△ 2.8	
歳入合計	11,885,060	12,007,086	△ 1.0	

歳出	項目	29年度	28年度	増減率
	人件費	2,205,036	2,191,940	0.6
物件費	1,971,592	2,257,976	△ 12.7	
維持補修費	465,331	479,445	△ 2.9	
扶助費	510,348	400,487	27.4	
補助費等	949,663	1,045,851	△ 9.2	
公債費	2,306,590	2,535,711	△ 9.0	
普通建設事業費	1,523,085	1,025,539	48.5	
補助事業費	377,839	513,210	△ 26.4	
単独事業費	1,145,246	512,329	123.5	
災害復旧費	7,300	7,400	△ 1.4	
投資及び出資金	200	200	0.0	
積立金	227,211	244,497	△ 7.1	
貸付金	55,160	54,260	1.7	
繰出金	1,658,244	1,758,480	△ 5.7	
その他	5,300	5,300	0.0	
歳出合計	11,885,060	12,007,086	△ 1.0	

新年度予算

※普通会計とは、他の自治体と比較するために地方財政統計上、統一的に用いられる会計区分です。本町では、一般会計、診療所特別会計の一部、町営スキー場特別会計を加えたもので、一般会計の性質別内訳と合致しない場合がある。

平成29年度特別会計予算

前年度比 3億6,418万円、△5.4%減

特別会計名	平成29年度(千円)	平成28年度(千円)	増減率
国民健康保険	1,801,482	1,914,475	△ 5.9
後期高齢者医療	177,981	195,171	△ 8.8
介護保険(保険事業)	2,271,275	2,268,666	0.1
介護保険(サービス事業)	41,039	39,469	4.0
診療所	202,444	206,990	△ 2.2
簡易水道事業	637,945	979,410	△ 34.9
下水道事業	990,386	886,792	11.7
町営スキー場事業	75,228	71,740	4.9
水道事業会計	175,850	175,098	0.4
特別会計予算合計	6,373,630	6,737,811	△ 5.4

一般会計 **123億8千万円** 9千万円減額
前年度比0.7%減

特別会計 **63億7,363万円** 3億6,418万円減額
前年度比5.4%減

3月定例会議

3月定例会議が3月7日から17日まで開催された。

町長から提案された専決処分の承認事項2件、議案38件(平成29年度一般会計・特別会計等予算10件、平成28年度各会計補正予算10件、町道路線変更・認定、ひとり親家庭等の医療費補助に関する条例の一部改正などの条例の一部改正が9件、新潟市及び阿賀町における連携中枢都

平成29年度の主な新規事業

●病児保育事業

1,862万8千円

病気の回復期にあつて、集団保育が困難で家庭においても保育できない児童に一時的な保育を実施する。



市圏の形成に係る連携協約など)、諮問18件(固定資産評価審査委員4件、農業委員会委員の任命14件)、委員会発議1件、計59件を審議し、うち2件の議案が取り下げられ、議案及び発議37件を原案のとおり可決し、諮問18件を同意しました。

予算審査特別委員会

審査報告

予算審査特別委員長

委員長 小池隆晴

本委員会は、3月10日、13日、14日及び15日の4日間にわたり慎重に審査した結果、条例の制定及び各会計予算とも原案のとおり可決すべきものと決定しました。

委員会事務調査報告

エゴマ・雪椿の商品化に向けた取組状況等

産業建設常任委員会

委員長 伊藤 武一

管内調査

◆調査日 平成29年2月8日
◆調査地 役場第3会議室

調査概要

(1) エゴマ・雪椿の商品化に向けた取組み状況

6次産業化に向け、エゴマ栽培及びエゴマオイル製造に取組み、地域の活性化及び特産化を図ることを目的とし、エゴマ組合を結成。搾油機器を購入し、事業化に向け支援。

(2) スキー場の雇用・営業状況

営業オープン予定日に雪不足のため稼働できず、年末年始も同様で大きな痛手となる。スキー授業の受入れは町内外の学校で15校。イベント等を多く開催し、入り込み客の拡大に尽力することであった。近年の温暖化傾向での少雪も問題。



搾油状況の視察

(3) 川を活用した町づくり推進事業

事業内容は、阿賀野川河川公園改修、キリン山公園改修（園路、トイレ、駐車場）看板改修。

雪椿里づくり（雪椿植栽地造成、搾油所整備）等の工事が継続実施（平成30年度まで）

(4) 町道川口・岩谷線改良工事

新橋梁工事は概ね完了し、引き続き県道新発田・津川線の改良工事と合わせて橋への取付け道路工事の施工を進めている。

今年度の11月頃までに完成したいとの説明であった。

(5) 除雪機械の貸与状況及び除雪待機料について

除雪機械の貸与は、除雪ドザー18台、ロータリー除雪車8台、凍結防止散布車3台を19社の業者に貸与している。基本待機時間については車両除雪機械は123時間、歩道除雪機械は62時間、凍結防止剤散布車は123時間との説明であった。

まとめ

○雪椿の商品化については雪椿オイル・うどん・石鹸等の製造販売数が限られていること。植栽の場所の検討が課題である。

○エゴマの商品化では、後継者不足、耕作面積の拡大が課題といえる。

○町道川口、岩谷線改良工事は生活道路として又観光地へのアクセス道路として重要な道路であるので1日も早い完成をお願いしたい。

○除雪作業はオペレーター不足や高齢化が進んでおり、技術者の養成が喫緊の課題と思われる。

管内調査

◆調査日 平成29年1月20日
◆説明員 清野教育長
学校教育課・町民生活課・総務課

調査概要

1、小中学校の統廃合

三川小中学校保護者との「一般会議」においての意見を進言した後、町教育委員会の対処について説明を受けた。

2、黎明学舎の現状

学舎開設後の状況について説明を受けた。
3、保育園の統廃合
日野川保育園・上条保育園の保護者の皆様と協議を進めていく。鹿瀬保育園の統合についても協議していく。

4、公の施設管理

指定管理施設・遊休施設管理・公売施設等について説明を受けた。
町管理の危険家屋についても協議した。

まとめ

1、今後の中学校の統合議論は地域の声に耳を傾けていくことを望む。小学校の統合問題については、地域に向き丁寧な説明と地域の意見を取り入れた統合会議になるよう運営を望む。

2、高校存続の観点から設置された黎明学舎の運営は成果が上がっているとのこと、これから期待する。
3、保育園の統廃合は、保護者の皆様の意見を聞き慎重に対処することを望む。

上川地区は、小学校の統合問題もあるので保護者の意見を聞くように強く望む。

また、鹿瀬地区は、制度上の相違点から保育料金問題も考えての方針策定を強く望む。
4、公の施設管理については次の点を考えて方針を策定願いたい。

① 不用な施設は廃止を早急に検討対処することを望む。
② 建設機械等公売方法につ

管内調査

◆調査日 平成29年2月17日

調査概要

陳情書・要望書の取扱い

「協同労働の協同組合法の制定に関する意見書」及び「高額医療費」「後期高齢者の窓口負担」の見直しにあたり、「現行制度の継続を求める意見書」について調査検討したい。

まとめ

調査の上提出する。

1. 小中学校の統廃合
2. 阿賀黎明学舎の現状
3. 保育園の統廃合
4. 公の施設管理

総文社厚常任委員会

委員長 齋藤 秀雄



統廃合問題を審議中



五十嵐隆朗 議員

問 町の買い物難民を救え!

答 移動販売の充実を考える

問 子育て世代の教育環境の充実を

答 財政を考え検討する

商売の方法は あると思う

質問 一般的に移動販売や宅配はコストがかかり、利益には薄い業種と言われているが、車両があり、やり方次第で十分に買い物に困

移動販売車の 活用が急務

質問 高齢化が進む中、買い物に不便を感じる声に、阿賀の里は平成18年に住民の利便性向上、福祉の貢献にと町が補助し購入、平成23年にはワゴン車を導入して2台体制で実施。しかし、平成27年に中止した。その後、販売車は動かない、早急に活動させてほしい。

早急に実現させます

町長 地域住民の買い物物の利便性向上も考え、移動販売車両の有効な活用は早急に取り組み、実現させるよう指示します。一台は修理困難のため昨年廃車しました。



移動販売車

集落支援制度など活用

町長 もう少し工夫をして、地域の皆さんの要望にこたえられるようにしたい。地域協力隊事業として庭先集荷事業、あるいは集落支援制度の活用も含め実現させます。

子育て世代の 教育環境の充実

給食費の無料化導入を

質問 理由は、家庭の負担

5、小池 隆晴

・心配される第三セクターの抜本的な改革を問う。

6、入倉 政盛

・高速バスは試験運行ではなく本運行の判断を
・こどもインフルエンザの拡充を
・温泉入浴料の減額措置を
・就学援助の改善を

7、斎藤 栄

・入札状況について
・入札監視委員会について
・自主防災組織の育成強化について

8、斎藤 秀雄

・少子高齢化を生き抜くために
・子どもたちの夢を実現させよう
・地方創生事業について

平成29年3月定例会議は、8人の議員から一般質問があり、町政全般について活発な議論が行われた。質問と答弁については9ページから16ページです。

1、五十嵐 隆朗

・阿賀町の「買い物難民」を救え
・子育て世代の教育環境の充実

2、宮澤 勝見

・除雪対応を問う
・ホテルみかわの対応を問う
・ソバ、エゴマ農家に機械を貸与すべき
・人員支援員の辞職を問う

3、清田 輝子

・町営住宅の売り渡しについて
・阿賀町の観光の行方は

4、宮川 弘懿

・第三セクター(株)阿賀の里、(株)上川温泉、奥阿賀観光(株)の改革について

の軽減、食育の推進、子育て世代の定住、学校現場の事務負担軽減などです。児童数の減少、学校統廃合が進む中、今こそ導入を考えるチャンスではないか。

前向きに検討する

町長 給食費は、平成22年度から据え置き、家庭の負担減に努力している現状ですが、財政を考えながら前向きに検討します。

全国平均・県平均より 給食費が高いのでは

質問 阿賀町の一カ月当たりの給食費は小学校で五千円、中学校では五千五百円です。少し高いのではないか。

若干高いです

学校教育課長 県平均より若干確かに高いです。要因として、地産地消を取り入れていることもある。

教育長 児童・生徒数で作る食数の問題もあり、一人一人の負担がちょっと高くなるようです。

奨学金制度の改革を

質問 国・県レベルでも制度改革に取り組み、4月に導入される見込みです。将来を担う有能な人材の育成と阿賀町への移住を促進するため、例えば阿賀町で、8年以上住めば奨学金返済免除など、抜本的な改革が必要ではないか。

今後の検討課題

町長 居住条件付きの返還免除につきましては、子育て世代の保護者への定住支援や、他市町村からのITイン、Uターン促進につながる施策ですので検討します。



給食の様子

*一般質問＝議員が執行機関に対し事務の執行の状況及び将来に対する方針について所信を質し、あるいは報告、説明をもとめ又は疑問を質すことをいう。本町議会の場合「一問一答方式」で質問時間は答弁を含め一人一時間以内となっている。





宮澤勝見 議員

問 必要のない除雪路線の廃止の検討を

答 必要のない路線廃止の対応を考える時期に来ている

質問 公共事業が少なくなり雇用もままならず除雪業者も必然的に少なくなります。今後の対策として考えられるのは

①業者が重機を持つことが大変になるので、町が貸与の形をとる準備をする

②中心部から離れているところのお年寄りのみの世帯が一、二件と少ない場合、町が準備する住宅へ住んで貰う

③必要のない除雪路線の廃止

財政緊縮を考えた上で廃止を求めるが所見を伺う。

町長 公共事業が減少し独自保有は厳しくなる。業者の機械の状況を把握し確保してゆく。廃止路線は対応を考える時期に来ている。

除雪の今後を問う

質問 公共事業が少なくなり雇用もままならず除雪業者も必然的に少なくなります。今後の対策として考えられるのは

①業者が重機を持つことが大変になるので、町が貸与の形をとる準備をする

②中心部から離れているところのお年寄りのみの世帯が一、二件と少ない場合、町が準備する住宅へ住んで貰う

③必要のない除雪路線の廃止

財政緊縮を考えた上で廃止を求めるが所見を伺う。

町長 公共事業が減少し独自保有は厳しくなる。業者の機械の状況を把握し確保してゆく。廃止路線は対応を考える時期に来ている。

ホテル三川への対応は

質問 昨年ホテルみかわを中国の山嶼海という会社に売却した。今後インバウンドへの対応が急がれるが所見を伺う。

町長 住民が頻繁に使うプールから改修に入り、宿泊施設等から順次整備することになっている。

地元の酒、米、農産物を使った料理等で住民の皆さんから協力を頂きたい。



改築中のホテル三川

エゴマ、ソバ用コンバインは町で買い、貸与すべきだ

質問 コンバインが古くなったから今後町で買わずに農家に買って貰う話がある。奨励補助事業に取り組んでも何年か経つと、次の補助事業に移り、うまくいっている奨励作物は何一つない。

ソバ、エゴマづくりも殆ど高齢者が作っているものです。コンバインは町が準備するべきです。

町長 今の機械は18年経ち、今年も修理して使うが生産者に団体設立を求め、機械を貸与する仕組みを考える。そしてコンバインを導入し活用するための検討をする。

人員支援員の辞職を問う

質問 エゴマ作りの支援員として応募で採用され、六次化を目指して頑張ってきたが職場との意見の違いから辞めることになった。彼らのエゴマの報告書を見たら立派なものであった。なにがあったのか伺う。

町長 詳細に記録された報告書であったと聞いています。職員との対応に行き違いがあったようですが、それだけが辞職の理由ではないようだ。



阿賀町産のエゴマ油

問 堂島町営住宅を安く譲渡せよ

答 詰めて対応する

問 当町の観光に女性の声を

答 奮起を促していく



清田輝子 議員



堂島町営住宅の売却を

売却の予定は

質問 堂島町営住宅の売却について、アンケートを取りその結果が提出されたがあまりにもあいまいである。「30年以上入居しているので建物に愛着がわいているので所有したい。」

「買受も検討している。」

「そのまま住みたい。」

このようなアンケート結果でしたが、肝心の金額の提示がされていない。住民の方に値段をつけよ、は無理なこと。老朽化している

詰めて対応したい

町長 堂島住宅は、昭和59〜61年にかけて建てられたもので、老朽化している。現在、22戸の住民の皆様が入居されている。償還金も終了しているので払下げも可能と思っている。

しかし、あの土地は登記が1筆となっていて、個々に売るのは、分筆しなければならぬ。家は買ったが土地は町の物では意味がない。分筆は600〜700万円程掛かるのではないかと。地域の皆さんとこの件についても詰めたうえで対応が必要であると思う。

決断は早目に

質問 登記は専門家に依頼しなくてもできる。職員が法務局へ出向する、これは

観光にもっと力を...



である。今、町の観光は衰退している。一口に言っていてに刺激が足りない。このようなことでは、観光が成り立つ訳がない。特に観光協会は一般社団法人になったので頑張ってもらいたいものである。

刺激のないところに希望など生まれない。又、どのような組織でも女性の声が届かないところは衰退する。観光について女性の声も聞いてみてはいかがか伺う。

奮起を促していく

町長 まさに女性の声は必要であると思っている。女性が頑張ることによって、町も地域も大分違ってくる。私も女性職員も奮起を促していきたいと思ひ、今後意見交換を十分して刺激ある町づくりをしていく。

観光について女性の声を

質問 少子高齢化である我町の繁栄となるものは観光



宮川弘懿 議員

問 (株)阿賀の里の抜本的改革は専門的知見者に依頼を

答 新年度予算で対応している

質問 経営のあり方、方針理念、第三セクターとして阿賀の里がどうあるべきかを見直すべきです。国の人的支援・財政支援制度を利用して、お金のことから、専門家を活用方法を考えるべきです。

町長 岩谷地区にある道の駅みかわも並行して公営施設運営改革業務委託料を計上し、専門家のもと改革を図ってゆく。

阿賀の里所有の建物等の町有化に問題

質問 平成20年度の売上げが、6億6500万円あった。平成28年度は、2億9000万円となる見込みとのこと。

町長 時代に即した企業価値の創造、顧客の創造ができていない。従って、売上げも落ち込み、毎年利益もでない。



統合予定の奥阿賀観光

指定管理料に問題はないか

このような状態を放置して、建造物等の対価を阿賀の里の借金に振り向けても根本的な解決にならない。今後、その維持管理にリスクを背負うことになり、安易に賛成できる問題でない。

町長 他の三セクと同じように指定管理料によって施設の管理をしてゆく。

質問 経営が困難なら縮小するか手放すかを考えるのが筋と思う。

町長 本業である行政サービスの負担にかかわるものを背負い込む問題か。

町長 この際公有化を進めて、健全経営に向け、舟下りが稼働することで十分対応できると考えている。

奥阿賀観光(株)と奥阿賀温泉の統合

問 統合で何が解決するのか

答 一括管理で経費節減

質問 統合しなければできない問題かどうか問題であると思う。

町長 統合しなくても、皆さん



経営方針を明確にせよ (阿賀の里全景)

このような問題も、専門家の知恵を借りて、それぞれの施設はどうあるべきか施設の差別化を図ることが重要と思う。

町長 指揮命令の人の問題と同時に、一括仕入と従業員の柔軟な配置・送迎用車輛の利用・効率化等全般の改革を図ってゆく。



小池隆晴 議員

問 心配される第三セクターの抜本的改革を

答 各事業所の連携を密にして取り組む

質問 赤字を抱える第三セクター、今後の抜本的改革案を聞きます。

町長 ホテルみかわについては施設の改善や目的使用についてやっていけるかどうか見極めていかなければならない。今後、ホテル利用者の周辺施設である阿賀の里やスキー場、地元の特産品である米、酒、農産物等の販売促進を期待する。

町長 奥阿賀観光(株)と奥阿賀温泉については統合して一つの会社組織とする方向で考えている。二社を統合することによって経費の削減、送迎用バス等の設備、備品の有効活用、人的な適正配置などまた、それぞれの施設が特化することを期待している。

阿賀の里については他の第三セクターと同じように公有化をする中で施設整備も含め皆さんの要望、ニーズに応えた計画性のあるものを作り、改善を図る。各単体での取り組みでは

誘客等の成果を十分図ることとは難しいと考える。各事業所の連携をより密にして取り組んで行くことが大事だ。

町長 二社ある農業公社については昨年度から継続している県の6次産業化プランナー事業から専門家の指導を受け改善を図る。将来的には両公社の一本化も視野に入れていく。



第三セクター抜本的改革は…

質問 町長の答弁を聞いて多くの疑問がある。第三セクターにはリーダーがいないう。海を航行して自分が寄港するところが知らない難破船のようだ。

町長 リーダーは企業の目標を決め、従業員に夢を与え、働く意義を生み出し、士気を高めるといふ大切な人材育成が必要と思うが。

町長 地域の連携を密にし、地域の産業、観光施設を活用しなければならぬ。まさに人の問題と考える。



期待が大きい移動販売車

質問 移動販売を始めるようですが、事業所での考えからですか。

町長 仕入れの問題があつて休んでいたが、今取り扱っている商品を売っていきたいという現場の声である。地域の皆さんが望むもの第三セクターであればこそ、皆さんのために応えていくことも使命と思つている。



入倉政盛 議員

問 就学援助の改善を

答 国に準拠して単価引き上げの実施をする

質問 平成29年度予算案では「要保護世帯」の就学援助のうち、新入学児童生徒の入学準備費用の国の補助単価が2倍に引き上げられました。要保護世帯にも単価引き上げの適用を。

町長 町の支給要項にもとづき、支給対象が要保護及び要保護へ支給する規定となつていて、国に準拠して要保護者の単価も引き上げを実施しなければと思つている。



問 高速バスは試運転ではなく、本運行の判断を

答 関係機関と調整・補正する中で実現していきたい

質問 高速バスの社会実験が始まつて半年近くなりますが、現状はどのようなようになっていくのか。

町長 県は、昨年「高速バス運行のあり方検討会」を立ち上げました。都道府県では全国で初めてとなる高速バス運行支援を行う事となりました。皆さんと一緒に取り組んだ成果が半額助成として実ります。



整を行つて補正をさせていた。ただ中で実現していきたくい。

平成29年度予算では9月末までの実証運行に係る予算を計上しております。皆さんのご理解をいただきます。皆さんのご理解をいただきながら本運行に關連する予算について、停留所新設やダイヤ改正等、利用者からの要望事項を踏まえ、運輸局と関係機関との最終的な調

問 こどもインフルエンザの助成を

答 子育て支援をいっそう強化する

質問 12月定例会でも多子世帯に対する助成を求めましたが、どのような取組になるのか。

町長 要望に対しては可能な限り取り組んでいく。いづれは、統一した形で助成していく。

例えば「YOU&湯」の温泉については10回の回数券で、3枚のサービスになっている。

それぞれのところで取組みが違つているが、減額措置というのは地域の利用とついで、十分しんしゃくしながら取り組んでいく。

問 温泉入浴料の減額措置を

答 出来るだけ要望にそつた形で取組む

質問 現在も温泉利用者が減つてきている中、町はどのような対応を考えているのか。

町長 新年度からは中学卒業まで拡大し、第3子以降の児童には2回目の予防接種も助成対象として支援する。

問 工事発注計画が遅れるのは事業者の負担になる

答 遅れがでる場合は、訂正し公開する



齋藤 栄 議員

質問 町は、工事発注計画をホームページで公開しているが、入札が実施されない工事がいくつか見られる。受注を目指す事業者は、遅れることで余分な負担が生じる。入札の進捗状況を伺う。

町長 補助事業認可や地権者の意向、または、消雪井戸の試掘で水が出なかつたことなどによって、当初の予定より遅れているものもある。理解してほしい。

質問 ホームページの発注計画が、訂正されずに何ヶ月も放置されていることに問題がある。

町長 せっかく周知している訳ですから、変更はすぐに対応するのは当たり前、早急に対応したい。

問 入札監視委員会の開催状況について

答 年3回開催している

質問 入札監視委員会は、不正防止等の上で必要と思つている。

毎年予算計上があるが、成果が見えない。開催状況と、開催回数を示してほしい。ホームページの掲示は平成24年から変更されていない。簡略で良いから掲載すべきと思つている。

町長 年間3回、開催している。4月11日、8月18日、3月23日である。入札の不正防止と談合防止、高落札率案件の軽減等を目的とした指摘指導をいただいている。

ホームページへの掲載については、議員の要望に配慮されるよう取り組む。

問 自主防災組織の育成、町は丁寧な説明を

答 高齢化が進み細かく取り組みが必要



新潟・福島豪雨災害での冠水状況

質問 町は、町内各区分長に自主防災組織の組織化を文書だけで、通知しているがもっと丁寧な説明が必要ではないか。

町長 町は、町内各区分長に自主防災組織の組織化を文書だけで、通知しているがもっと丁寧な説明が必要ではないか。

文書だけ配布して、詳細な説明がなく、組織化に困つている区分長が多い。

町長 これについては、再

三、区分長会議で行つてきている。町では、防災組織は消防団に代わる組織として考えてきた。しかし、団員の高齢化で退団者も多く、地域の再組織化をお願いした。

質問 再三、区分長会議で話したと云うが、何故出来ないのか。区分長は、聞いていないという。もっと丁寧に区分長会で説明すべきだ。

町長 地域の高齢化や、小集落の連携と消防団も無くなつてきているところもあり、細かく取り組む必要がある。指摘のとおり臨んでいきたい。

町民の広場

私もひと言

ひろば



我が家の畑
塩野真紀さん（鹿瀬）

私たち家族は、2年前に津川区から鹿瀬に移り、新しい土地での生活を始めることになりました。少し不安もありましたが、近所の皆さまの助けもあり、毎日楽しく過ごしています。家の裏には畑がたくさんある中で、我が家の畑もありません。野菜が値上がりする中、少しでも自給自足をと思い、昨年畑を始めることにしました。始めは思い通りに行かず聞きながら進めていきました。苗や種を植えてからは日々の成長を子どもたちと楽しみにしていました。1日1日過ぎていく中で、野菜もどんどん成長し、食べられるくらいの野菜が出来ました。自分たちが初めて作った野菜を食べた時は、いつもとはひと味ちがうおいしさでした。土づくりから始め、大変な作業はありましたが、感



動をあたえてくれる野菜でした。今年も野菜作りを家族みんなで頑張ろうと思います。



子供たちの成長と共に
佐藤弥生さん（岩谷区）

9年前、子供の出産を機に生まれ育った阿賀町に戻りました。地域の方や家族に支えられながら、仕事と子育てを両立する事が出来ています。我が家には二男一女の子供たちがいますが、大きくなるにつれて様々な事に興味を持ち始めるようになりました。春から秋には野球や外遊び、冬はスキー。指導者にも恵まれ、より良い環境の中で伸び伸びと成長してくれています。何かを習う、極める、続ける事はとても大事なことです。小さい頃から色々なスポーツや遊びに触れて、たくさん経験を積んでほしいです。阿賀町にも、気軽に体を動かしたり自然を使った色々な遊びを教えてください。いいなと思います。これからも豊かな自然の中で、子供たちが伸び伸びと生活できる阿賀町であってほしいと思います。



問 少子高齢化を生き抜くため

答 こどもたちの夢の実現を



齋藤秀雄 議員

保育料の無料化を

質問 町の財政からむずかしいかもしれませんが保育料の完全無料化や出産祝い金の増額を検討されてはどうか伺います。

また、子育て給付金制度も創設できないか伺います。

効果的なものを選択したい

町長 町の財政状況を見ながら少子化対策に一番効果的な方策を選択していきたい。新年度からは子育て支援策は充実させた予算計上をした。

国・県の制度を効果的に取り入れて町財政の負担を軽減した施策をしたい。

こどもたちの夢を

質問 こどもたちが特産米販売・雪つばき・えごまオイル販売や森林資源活用で観光客誘致へも提言しています。

こどもたちの提言を汲み取り、大人が行動する時です。阿賀町の未来のために検討しませんか。

こどもたちに学ぶ

町長 子供たちのアイデアや願いを理解して、大人が



角神雪椿園

それぞれの立場で町の魅力発信をすることが重要と思うので対処していく。地域の民話語りや狐の嫁入り行列、会津との関わりなどの提案を活かすよう行動する。

迂回路線整備を

質問 災害時の緊急避難路の必要から迂回路整備が必ず要です。

林道・農道整備とヘリポート着陸地点整備についての考えを伺います。

行動していく

町長 災害時の迂回路確保については町単独では無理があるので、国・県と連携して取り組み早期に林道など完成させていくよう努力する。

開かれた町長室

質問 町長は若い人たちの意見を聞く場を設けて風通しをよくしてはどうか伺います。

いつでも開いている

町長 私ほど開いている町長室はないかと自負している。職員はじめていつでも町長室に来てほしい。町民にもいつでも来庁を望みます。今後は自覚して解放感を示していく。



未来の夢を考えるこどもたち